

踊る阿呆に見る阿呆, 同じ阿呆なら踊らな損々 ……な主任者



この人：(株)大塚製薬工場 長谷川豊司氏

この人, こんな所

インタビュー担当：放射線安全取扱部会広報専門委員
矢鋪祐司（日本たばこ産業(株)）

今年の放射線安全取扱部会年次大会は四国の愛媛県で開催されます。中国・四国支部の主任者の方々は準備で多忙な日々を過ごされていることでしょう。その四国を代表して、製薬企業の雄である(株)大塚製薬工場の主任者をしている長谷川豊司氏にご登場願いました。

矢鋪：まずは、事業所と放射線施設を紹介してください。

長谷川：では、まず我が社の宣伝からいたします。(株)大塚製薬工場は、1921年、大塚武三郎により創立されました。大塚製薬、大鵬薬品工業、大塚化学、大塚食品、アース製薬など、国内外151社を抱える大塚グループの発祥となる会社です。工業薬品や局方薬品を製造・販売していましたが、戦後、注射薬の製造に着手し、爾来、新薬の開発、容器の革新、輸液関連システムの研究等、あらゆる面から取り組み、その成果は常に時代をリードし“輸液の大塚”と呼ばれるほど、国内のみならず世界中より高い評価を受けています。年々複雑化・高度化する医療情報と、変化し続ける医療現場の声をいち早く製品に反映させるため、2005年、臨床栄養営業組織の全国展開を開始し、これまで以

上に明日の医療に挑戦し続けています。

放射線施設は昭和57年に許可を受けて、今年で30年目になります。施設自体は古くなってきましたが放射線測定機器、モニタリングシステム等を新しく更新しました。施設面積360m²ほどでコンパクトですが、実験器具類が揃っており実験研究するには使いやすいと業務従事者から評判です。

矢鋪：なるほど、オロナインH軟膏（浪花千栄子）、オロナミンC（大村崑）、アース渦巻（由美かおる）、ハイアース（水原弘）などの^{ホーロー}瑤瑤看板は、大塚グループだったんですね【（ ）内は宣伝の出演者名】。大塚グループの大きさと歴史を実感しました。次に日常の放射線管理について教えてください。

長谷川：まず組織ですが、RI管理組織長としての開発研究所長の下に、放射線安全委員会、主任者、そして管理側には管理責任者、管理担当者、施設管理責任者を配置し、利用する側には、施設責任者、取扱責任者、業務従事者となります。またRIを管理区域外でも使用可能とされていますが、その時には分析機器室管理者の了解も得ています。日常の管理は主任者と管理担当者の3名で行っています。管理担当者は入室者の入所時間の集計、冷凍庫・保冷庫の庫内温度管理、ガスモニタの線量チェックは毎日行っています。放射線取扱主任者としてRI使用

主任者 コーナー

者及び RI 管理の実験実施サポート対応が主な仕事ですが、ISO14001 研究部門グループ推進委員、遺伝子組換え実験安全委員、衛生管理者（衛生工学）の業務も行っております。

矢鋪：日常の管理業務で何か困っていることはありませんか。

長谷川：主任者からの連絡には、従事者の皆さんは素直に対応してくれますので特に問題なく管理が行われています。年に何回か、整理整頓、清掃の連絡をしますが期日までにきちんと行ってくれています。日々、皆さん忙しく、文句を言う前に行ってくださいようです。管理を行うことは人とのコミュニケーションだと思っています。使用しやすい管理区域をいつも心掛けています。RI を利用していただくことで管理区域の存在があり、また存続があると考えております。それには使用者の要望には的確に素早くサポートすることが重要だと思います。

矢鋪：従事者の方々と良い関係が築かれていることが伺えますね。新人の放射線取扱主任者にとって、従事者との関係をどのように構築するかは悩ましいところです。では、これからの放射線取扱主任者に対して何か提言はありますか。

長谷川：特にこれといった提言はありませんが、RI の使用が減っていく中で、放射線管理のみしかできないようでは、企業としては雇ってくれないことは明白です。そのためには、組織の中で RI 管理以外に自分ができるところを見付けて、それと合わせて企業・社会へ貢献していく存在になることだと思っています。1つの方法として、主任者は管理区域の中から出て行くことが必要だと思います。外で得たことを持ち帰り、伝える努力を惜しまないことが企業で生き残っていく1つの道ではないでしょうか。企業の中で役に立つ人でないと勤めにくいですね。我が社では、主任者試験のみならず、各種

の試験に対する支援を行っています。人材育成及び各人のレベルアップは企業にとって、とても大切なことです。

矢鋪：RI が次第に使われなくなってきて、主任者も生き残るには大変な世の中になりました。色々な責任を求められて、ストレスが多いことと思いますが、リフレッシュするために何かされていますか。

長谷川：趣味としては、学生時代から卓球を続けています。若いときには、そこそこ技術に自信がありましたが、体重が増えた分、足腰に負担が掛かるようになってきました。年齢からしてラージボール（直径が普通球は 40 mm、ラージは 44 mm）の域にきています。ラージはオレンジ色をした少し大きなボールで、球速も少し落ちるためにラリーが続き面白みも倍増します。年配の方々のスポーツと思われていたのですが、今では若い人たちも多く参加して楽しんでいます。卓球は全天候型ですから、いつでも身体を動かすことができます。たくさんの仲間がいて皆さん元気ですよ。

休みの日も仕事に出掛けることが多かったのですが、最近は家事のことで一杯です。5～9月までは米を作っています。昨年は台風で稲がすべて倒れましたので、今年は多くを望まず例年の7割を目標にしています。野菜なども今後は少しずつ作っていく予定です。これからは土と共に生きるのが自然かなと思っています。毎年2月は八朔の収穫時期で楽しみにしています。

矢鋪：最後に、徳島県鳴門市の魅力について教えてください。

長谷川：鳴門側から見る大鳴門橋や淡路島の景観は素晴らしいです。橋の下では1年に2度、大潮の時に大きな渦が巻きます。渦潮観潮船で渦を間近に体感することができますが、大鳴門橋に作られた“渦の道”のガラス床から、渦潮をのぞき込むことができます（写真1）。また、



写真1 鳴門海峡の豪快な渦と渦の道

渦潮から遠くないところに、古代から現代までの陶板名画美術館である大塚国際美術館があります。こちらの美術館は平成10年にオープンしました。古代から現代までの西洋の代表的名画を原寸大で陶板の上に忠実に再現し、1,000点以上を常設展示するという世界初のセラミックアートミュージアムです。日本に居ながらにして世界の美術館が体験できます。ゆっくり見ますと7時間は掛かりますが一度は是非見ていただきたいと思います（写真2）。

鳴門の魚はとても新鮮で美味しいですし、“鳴門金時”も有名です。鳴門金時は、砂地、温度、湿度、風向などによってもでき映えが違いますし、夏の出勤時に買う梨が美味しいです。徳島県は四国の東部に位置し、海・山・川に恵まれた自然の多い温暖な気候の地域です。すだ



写真2 大塚国際美術館で完全再現されたミケランジェロが全精力を注いだ天井画（「創世記」）と壁画（「最後の審判」）があるシスティーナ礼拝堂

ちや阿波尾鶏などは日本一の出荷量です。お盆には400年の歴史を持つ阿波踊りが県内一帯で行われます。私はへたくそですが企業連に混じり毎年踊っています。4月の桜の頃より有名連では運動場、河川敷等のあちらこちらで厳しい練習が始まります。また「青は藍より出でて藍より青し」ということわざもありますが“Japan Blue”として鮮やかで深い魅力を持ち合わせた藍の栽培も盛んです。藍染めの体験ができる施設もいろいろあります。鳴門の渦潮、大歩危小歩危、剣山などの観光地や釣り、サーフィン、スキューバダイビングなどのアウトドアスポーツも盛んに行われています。

今年は秋に四国の松山市で放射線安全取扱部会年次大会もありますので、是非皆さん、徳島にもお立ち寄りください。